

樹脂の高度な配合技術に強みを持ち、 「次世代のものづくり」に貢献する研究開発型企業

基礎となる電気絶縁材の技術を応用し、様々な機能性樹脂を独自にブレンドすることにより高付加価値の材料を開発する素材メーカー。また開発した材料の可能性を最大限に引き出すため、加工、成形、デザイン、部品化までワンストップで行い、医療、自動車、車両、船舶、航空、半導体など多岐にわたる分野でのニーズに応えている。創業70年を迎え、独自技術開発に拘らず、他企業とも共同開発を行うオープンイノベーションや産官学の研究にも積極的に取り組む『研究開発型企業』を目指している。

- | | | | |
|---------|---|-------|----------|
| ●所在地 | 大阪市北区大淀北1丁目6番41号 | ●設立 | 1947年 |
| ●電話/FAX | 06-6458-5511/06-6458-3510 | ●資本金 | 10,000万円 |
| ●URL | http://www.nikkokasei.co.jp/ | ●従業員数 | 144人 |
| ●代表者 | 代表取締役社長 利倉 一彰 | | |



独自の配合技術で高品質な機能を持つ複合材料の開発を実現

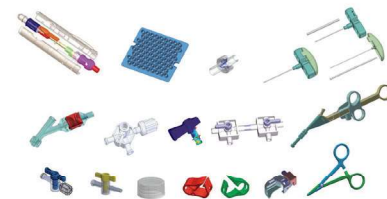
自動車EV化やIoT・AI製品の進出により複合化材料ニーズが高まっている。同社は独自の「配合技術」=異なる原料をブレンドし、高絶縁、低誘電特性・耐薬品特性・耐熱・対静電特性など今まで世の中になかった「複合化材料」を創出。それにより発電機の発電効率の向上、鉄道絶縁材を軽量化=車両の高速化、電池分野の特殊な耐熱・絶縁化に対応。また電子部品実装用パレット材の開発に伴う産業機器基板の高集積化・高密度化に貢献。今後も長年培ってきた技術を駆使し、より高い信頼性ある新素材を提供していく。



樹脂と成型技術を集結した「タイモルド」

オープンイノベーションをキーワードに技術交流に積極的

同社単体の独自開発だけではなく、「オープンイノベーション」をキーワードに大手企業、研究開発機関との共同研究、大学研究機関・公的開発機関との「コンソーシアム研究」を積極的に行い『研究開発型企業』を目指す。なかでも「医療分野」では製品デザイン設計力を高め、更なる「高度医療機器」製品に対応するためQMS品質基準を取得、神戸医療産業都市構想・商工会議所ライフサイエンス振興事業に参画し更なる高みを目指す。



共同開発から誕生した医療機器

滋賀研究所に加え、大阪の新研究所開設で地域経済にも貢献

独自配合の複合材料を生み出す滋賀研究所では、滋賀の工業技術センターや、滋賀や京都の大学とも連携し、更なる高付加価値の素材の開発を行っている。また大阪に新たな研究所を新設し、新たな化学材料分野の技術研究を今年度から開始した。今後は京阪神地区の大手企業や大学・公的機関とも連携し、地域経済の発展に貢献し、さらなる技術革新を実現できる未来志向企業を目指す。



全面リニューアルした滋賀技術研究所